

平成30年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

①豊かな心をはぐくむ教育の推進

<h3>1 一人一人の児童生徒の尊重</h3>	<h3>2 友達への思いやり</h3>	<h3>3 道徳・心の教育の充実</h3>
<p>学校は、一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応ができていますか。</p>	<p>子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。</p>	<p>学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）</p>
<p>【学校から】[1]学校の取り組みは保護者の方々の理解を概ね得られており、学校側の姿勢は伝わっているものとする。今後も、心のアンケート、児童との個人面談、人権教育の取り組み等を通して、児童一人一人が安心して学習や生活ができる環境づくりに努める。[2]全体的には、児童同士の交友関係は良好であると解釈できるが、児童間のちょっとしたトラブルが時折見られるので、職員全体で今後も注視していく。[3]教職員、保護者ともに、概ね肯定的な結果となっている。今後も教育活動全体で道徳教育の充実を図るとともに、さらに家庭との連携、協力を努めたい。</p>		

②確かな学力を育む教育の推進

<h3>4 意欲的な学習態度</h3>	<h3>5 授業力向上</h3>	<h3>6 ICT活用</h3>
<p>子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。</p>	<p>先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。</p>	<p>先生方は、ICT機器を活用してわかりやすい授業づくりに努めていると思いますか。</p>
<p>【学校から】[4]昨年度に比べて若干教職員の評価が高まっている。それは、わかりやすく、楽しい授業に心がけることにより、授業に対して意欲的な児童が増えてきていると評価できる。[5]年々、保護者や児童の評価が良い方向へ向上している。ICTを効果的に活用するなど、さらにわかる授業、楽しい授業づくりに努める。[6]教職員、児童、保護者のいずれもがICTを活用しわかりやすい授業づくりに努めていると評価している。これはタブレットや電子黒板を使った授業の改善に取り組んでいる成果であると言える。さらにICTの有効な活用に努めていきたい。</p>		

③健やかな体を育む教育の推進

<h3>7 健康づくり</h3>	<p>子どもは、好き嫌いをなく食事をし適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。</p>
<p>子どもは、好き嫌いをなく食事をし適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。</p>	
<p>【学校から】昨年度に比べて、教職員は「4」、「3」の割合が増えている一方、児童、保護者の「4」、「3」の割合は減っている。これは、給食や学校生活の様子を見ている限りでは食事や運動において改善が見られていると評価しているのに対し、家庭では、食事、運動、睡眠において十分でない児童が増えていることが伺える。懇談会や面談等で、保護者に家庭の様子を聞きながら連携を図っていきたい。</p>	

①いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実

<h3>8 児童生徒理解</h3>	<h3>9 いじめや問題への対応</h3>
<p>先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようと努めていると思いますか。</p>	<p>学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。</p>
<p>【学校から】[8]保護者の評価は昨年度よりも高まったが、児童の評価は昨年度よりも否定的な回答が増えている。保護者への理解は深まったが、児童には思いが十分に届いていないようである。さらに子どもの自己肯定感を高める取り組みや接し方を継続する必要がある。[9]これも昨年度よりも保護者の数値が良い方向に向上している。いじめに対する学校の対応がおおむね評価されていると感じている。今後もいじめを許さない学校の姿勢をさらに子どもや保護者へ周知するとともに、いじめや生徒指導上の問題があったときに真摯に対応する組織作りに努める。[10]支援を必要とする子どもの教育について、組織的に取り組んだ結果、昨年度よりも保護者の評価が高まっている。今後は保護者との連携をさらに密にし、教育相談を適宜行うなど支援を必要とする児童に対して、さらに共通理解を図りながら取り組んでいきたい。</p>	

②特別支援教育の推進

<h3>10 学校の支援体制</h3>
<p>学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。</p>
<p>【学校から】[10]児童、保護者ともに肯定的な回答が昨年度よりも増えている。これは、毎月の安全点検で不備があった場合、迅速に対応をしているからだと考えられる。ただし、経年劣化により老朽化した部分が出てきているため、今後も十分に点検し、環境整備に努めていきたい。</p>

①子どもたちの身近な安全対策の充実

<h3>11 安全と事故防止</h3>
<p>学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。</p>
<p>【学校から】[11]保護者、児童、教職員ともに肯定的な回答が9割を超えている。安全に留意した休み時間の過ごし方や登下校指導を行っている成果だと考える。さらに、子どもたちの安全への意識を高めるとともに、家庭や地域と連携して児童の安全確保に努めたい。</p>

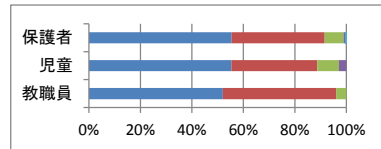
②最適な学習環境の整備

<h3>12 施設・設備の安全管理</h3>
<p>学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。</p>
<p>【学校から】[12]児童、保護者ともに肯定的な回答が昨年度よりも増えている。これは、毎月の安全点検で不備があった場合、迅速に対応をしているからだと考えられる。ただし、経年劣化により老朽化した部分が出てきているため、今後も十分に点検し、環境整備に努めていきたい。</p>

③家庭・地域社会との連携強化

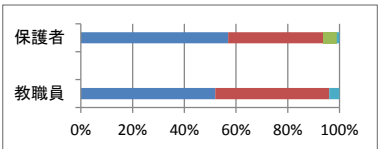
13 教育方針・目標の理解

学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者地域にわかりやすく示していると思いますか。



14 家庭や地域との連携協力

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。

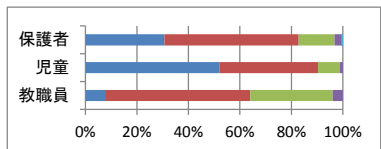


【学校から】[13]学校から保護者へは、学校便り、PTA総会等を活用し、機会あるごとに教育方針・目標を伝え、児童には始業式・終業式・集会等で伝えてきた。その結果、保護者・教職員とも「4」の割合が昨年より増えている。今後も伝達手段を工夫し、発信する努力を続けていきたい。[14]保護者から評価が昨年度よりも若干「4」、「3」の割合が増え、概ね肯定的な評価を受けている。今後もさらに家庭や地域との連携・協力を努めていく。

⑧本校の教育

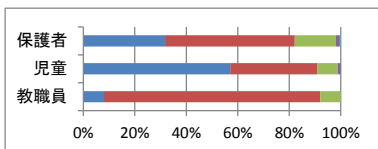
15 情豊かな教育の実践

子どもたちは、「笑顔のある、心のこもったあいさつ」ができていますか



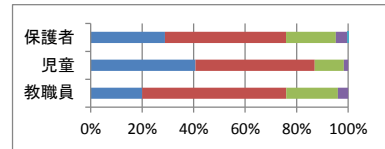
16 確かな学力の育成

子どもたちは、学習に熱心に取り組んでいると思いますか



17 教育環境の充実

子どもたちは、無言で掃除に取り組んでいると思いますか



【学校から】[15]教職員のやや否定的な評価は見られるが、昨年度よりも児童、保護者、教職員の評価は若干良くなっている。地域の人々から、「児童の挨拶が以前よりも良くなった」との声を聞くことが多くなってきており、児童の挨拶は全体的に良くなってきていると評価できる。今後もさらに挨拶の輪が広がるよう、指導していきたい。[16]昨年度よりも児童、保護者、教職員ともに、否定的な回答が若干増えている。これは授業への意欲的な態度を見せる児童が増えてきた一方で、家庭での学習が十分でないと感じている割合が増えていると分析できる。今後は授業作りばかりでなく、学習習慣をさらに身に付けさせるよう家庭と連携して取り組みたい。[7]教職員のやや否定的な評価は見られるが、掃除への取り組みはだんだん良くなっていると思われる。それに対し、家庭でお手伝いをできていない割合が4分の1いるので、今後は子どもたちにさらに掃除への意識を高めるとともに、家庭の一員としての意識も向上させるよう家庭と連携を図っていく。

来年度の具体的な取り組みについて

- 本年度と来年度の2年間、「持続可能な社会づくりを目指す心豊かな子どもの育成～ESDの視点を生かした自ら追求する授業を目指して～」という研究テーマで、市教育委員会指定のESDの研究に取り組んでいる。今回のアンケート結果を見る限り、昨年度の評価よりも向上している項目が多く、この研究発表の取り組みが学校をより良い方向へ導いている表れだとも考えられる。次年度も校内研究や日々の取り組み等を通して、「持続可能な社会づくりを目指す心豊かな子どもの育成」に努めていく。
- 教育目標方針については、学級・学校便り、PTA新聞、諸団体会合などあらゆる機会を通して情報発信を行うとともに、教育目標の実現に向けて保護者や地域に本校の学校経営及び教育活動への理解と協力を引き続き求めていく。
- 毎時間の授業の充実のためのさらにICTの効果的な活用や個に応じた指導を推進すると共に、宿題の出し方を工夫するなど、一人一人の児童に学習習慣を確立するため、家庭との連携をさらに図っていく。
- 学校全体や各学級における指導に加えて、委員会活動などで児童の主体的な活動をさらに活性化させ、PTAや地域の諸団体と連携しながら、挨拶やマナーなどの規範意識を育てる指導の徹底を図る。
- 安全教育や食育、教科の学習において、保護者・地域との人材交流、情報の共有をさらに進め、地域に根ざした教育を充実させる。特に、安全教育については、地域の交通安全協会や防犯協会とタイアップしながら、児童の安全の確保を十分に図っていく。
- 全国学力学習状況調査や熊本市学力検査の結果を受けて、児童の学力を分析し、きめ細かな指導の工夫・改善に努めていく。
- 体力づくり月間を設けたり、クラスマッチを企画したりして、子どもたちに運動への意欲を喚起し、体力の向上を図る。

学校関係者評価

- 公開授業や学習発表会などの学校行事を通して、子どもたちが楽しく学校生活を送っていることがよく伝わってくる。学校評価全体として、保護者・児童・教職員ともに「3」「4」の割合が昨年度よりも伸びている項目が多く、学校の取り組みの成果が評価されていると言える。
- 道徳教育や人権教育を教育活動全体で取り組んできたことで、児童の豊かな人間性の育成につながっていることが、学校評価の結果や学校参観等で見られる児童の伸び伸びとした姿に表れている。
- 教科指導等では、ICTの活用が進み、一人一人のニーズに応じた教育活動の工夫が見られた。授業参観でも先生方の工夫や努力によって、子どもたちの学習意欲が向上し、授業内容の理解が高まっていることが実感できた。
- 生徒指導・教育相談では、あいさつの励行や規範意識の醸成を図ってきているが、さまざまな事情を抱えている子どもがおり、細やかな配慮をしながらすべての子どもたちが心豊かに育ってくれるようにして欲しい。西里小校区は地域の支えがしっかりしているので、これまで以上に連携・協力を深めてもらいたい。
- 健康・安全教育では、自動車による送迎が増え、体力向上において心配な面もある。登校班による登下校では交通事故は起こっていないが、今後も子どもたちへの安全教育を徹底し、防犯・交通安全を地域と一体になり進めてほしい。